

国際医療福祉大学医学部整形外科専門研修プログラム

目次

1. 国際医療福祉大学医学部整形外科専門研修プログラムについて
2. 専門研修プログラムの特徴、研修スケジュールおよび施設群
3. 専門研修の目標
4. 専門研修の方法
5. 専門研修の評価
6. 専攻医受入数
7. 地域医療・地域連携への対応
8. サブスペシャリティ領域との連続性について
9. 専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件
10. 専門研修プログラムを支える体制
11. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について
12. 専門研修プログラムの評価と改善
13. 専攻医の採用と修了
14. 連絡先

1. 国際医療福祉大学医学部整形外科研修プログラムについて

国際医療福祉大学は医療系総合大学として1995年に開学し、以来医療に携わる多くの人材を輩出してまいりました。そして2017年4月に、開学以来の悲願であった医学部を設立し、初年度は海外からの留学生20名を含む140名の入学者を迎え、国際社会において活躍することのできる医師を育成するべく教員一同日々努力を重ねております。医学部キャンパスは千葉県成田市に存在しますが、当整形外科学教室においては教室主任の在籍する国際医療福祉大学三田病院（東京都港区）が現在本部機能を担っており、本プログラムも三田病院を基幹施設として構成されています。

国際医療福祉大学は「人間中心の大学」、「社会に開かれた大学」、「国際性を目指した大学」という3つの基本理念と、この理念を実現するための7つの教育理念（人格形成、専門性、学際性、情報科学技術、国際性、自由な発想、新しい大学運営）を掲げており、病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現を目指した教育を行っています。

医学部整形外科はこの大学の基本理念を踏襲し、とくに国際社会で輝くことのできる専門性と自由な発想を持った整形外科医師を育てて行くことを目標とします。これに基づき本専門研修プログラムとして以下の5点の修得を重点項目とします。

1. 整形外科医師としての高い見識

大前提として、整形外科医師として日常診療に必要な運動器疾患に関するあらゆる知識を身につけます。さらに発展し、新しい知見を吸収しかつ自ら新たな知見を発信するための総合的な見識を身につけます。

2. 倫理観ならびに協調性

運動器のプロフェッショナルたる整形外科医師として、高い倫理観と、社会における協調性を身につけます。とくに本学は医療系総合大学であり、医療に関わる他職種との連携取得、すなわちチーム医療の理解・実践に関し他大学と比べて優位なリソースを有しています。これらのもとに、全人的な医療を提供し、国民ならびに世界の運動器疾患の治療・予防に貢献できる専門医を目指します。

3. リサーチマインド

日常診療の中から運動器疾患に対する疑問点を見出し、自らの努力をもって

解明しようという気持ちを常に持つことが求められます。その課題を科学的に解析し、論理的にまとめる手法・能力を取得します。

4. 実践的な技術

全国でも有数の指導医と、連携施設が誇る多様な症例に基づいた研修により、整形外科専門医として高い技術を身につけます。手術手技のみならず保存療法、リハビリテーションに至るまで、医療系総合大学の強みを生かして系統的な研修を行います。

5. 国際性

本学医学部は先述のように他国からの優秀な留学生を受け入れ、かつ世界的にも高名な大学医学部複数とのネットワークを有しています。国内にとらわれず、国際社会においても一流と言われる人材の育成を目指します。国際学会での研究発表、論文投稿、留学等に関し、十分にバックアップのできる体制が大学全体として整っています。

先述のように2017年4月に国際医療福祉大学医学部が設立し、同時に当整形外科学教室が発足しました。初代教授・教室主任として石井賢が就任し、整形外科医師としての臨床・教育・研究能力に加え国際経験に長けたスタッフがその脇を支えています。若い教室ではありますが、国際医療福祉大学の5つの附属大学病院は整形外科学教室発足前からいづれもこれまで実績を重ねてきており、かつそれぞれの施設に若手から高い専門性を持ったベテランまでバラエティに富んだ医師がそろっており、これからの整形外科専門医を育てる体制がすでに整っています。

2023年3月に本学出身の初の卒業生を輩出し、この初代卒業生は2025年4月には初期研修を終了し専攻医となる見込みです。この間も国際医療福祉大学医学部整形外科学が発展を続けるために、かつ本学出身の卒業生を教育するべきスタッフを育成するために本専門研修プログラムが作られました。

本学の理念に基づき、当整形外科学教室としても時代の変化に即応して、古い慣習にとらわれず開かれた次世代の教室の構築と運営を第一に考えています。また、本プログラムでは、医療系総合大学として他職種との連携を常に意識し、「チーム医療・チームケア」を実践できるだけのスキルを取得できます。これらにより、本プログラムに参加した専攻医は、広い視野と高い専門性を兼ね備えた、国際社会に通用する一流の整形外科専門医となれると確信します。若い教室

であるがゆえに、本プログラムを終えた専門医が活躍すべきフィールドが当教室には豊富にあります。整形外科の新時代を共に築いていく意欲に富んだ若い力を広く募集します。

2. 専門研修プログラムの特徴、専門研修スケジュールおよび施設群

2-1 専門研修プログラムの特徴

1) 基幹・連携施設間の有機的連携

本専門研修プログラムでは、基幹施設としての国際医療福祉大学三田病院をはじめとした 5 つの附属大学病院と、国際医療福祉大学グループの病院である山王病院を含めた計 6 つの病院をローテーションします。グループ内でローテーションすることのメリットは、指導医同士の融通や連絡が密に取れることを中心として、基幹・連携施設間の横のつながりが密接であることです。これにより専攻医の習熟度、適性を病院間、指導医間で常にフィードバックでき、効率的な研修を可能とします。これは既存の他施設プログラムには見られない、本学プログラムにおける最大の強みと考えます。

2) 専攻医の社会保障

一般的な専門研修プログラムにおいては、ローテートする施設が変わるたびに勤務条件、社会保険等が変わり、種々の不都合が生じる可能性があります。本学プログラムにおいてはその心配はなく、どこの連携施設をローテート中であってもまさに国際医療福祉大学グループの一員であり、その身分が確実に保証されます。この結果専攻医は研修全期間を通じて安心して研修に専念できます。

3) 連携施設の高い専門性

5 つの連携施設のうち 4 つは国際医療福祉大学の附属病院であり、かつ地域における基幹病院としての役割を担っています。この結果それぞれの施設で大学病院としての高い専門性とそれと並行して地域基幹病院としてのプライマリ・ケアの充実が求められています。これにより所属する専攻医は専門医となるために必要な整形外科の一般疾患・外傷の経験を重ねながら、大学病院の持つ専門性を身につけるといふ非常に効率の良い研修ができます。山王病院を含む基幹・

連携施設はそれぞれ強みを持っており、例えば基幹施設である国際医療福祉大学三田病院は脊椎ならびに関節外科で豊富な症例を誇り、また国際医療福祉大学市川病院や山王病院においては手外科専門医が指導医として複数所属しています。このような各施設の特長を生かし、将来希望するサブスペシャリティ領域に合わせた効率的な研修を約束します。

2-2 専門研修スケジュールおよび施設群

1) 基幹施設（国際医療福祉大学三田病院整形外科）における研修

国際医療福祉大学三田病院は 80 年余りの長きにわたり地域医療を担ってきた東京専売病院を 2005 年に継承して開設されました。その伝統と本学の特色を融和させた病院としてさらなる発展を続けています。2012 年 2 月には現在の新病院が開設され、診療科の垣根を超えたセンター化をさらに強化し、専門性に基づく高度な医療を提供しています。2015 年 12 月には JCI (Joint Commission International) という国際医療機能評価認証を取得し国際的な病院として一定の水準を満たしていると認められました。当院では整形外科学教室は診療面では整形外科と脊椎脊髄センターを運営し、教室主任である石井賢がそれぞれの部長として統括しています。標榜科としては分けていますが、スタッフは一体として運営しており、カンファレンスその他教室におけるイベントは共通です。整形外科全般の臨床に対応しますが、特に教室主任である石井の専門分野である脊椎と、股・膝・足を中心とした関節外科に強みがあります。

表 1 三田病院週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
AM	脊椎回診 画像カンファレンス 手術		整形回診 画像カンファレンス 手術		脊椎カンファレンス リハカンファレンス 全体回診 手術	(手術)
PM	手術	検査 (脊髄造影)	手術	検査 (脊髄造影)	手術	
	教室ミーティング (月1回)					

2) 専門研修連携施設での研修

本専門研修プログラムの連携施設はいずれも本学附属の大学病院またはグループ病院の 5 施設であり、いずれも専門研修連携施設の認定基準を満たしてい

ます。

- ・ 国際医療福祉大学病院（栃木県那須塩原市）
- ・ 国際医療福祉大学塩谷病院（栃木県矢板市）
- ・ 国際医療福祉大学市川病院（千葉県市川市）
- ・ 国際医療福祉大学熱海病院（静岡県熱海市）
- ・ 山王病院（東京都港区）



大学病院 4 施設はいずれも地域医療における基幹病院として整形外科プライマリ・ケアの担い手としての役割に加え、すべてが大学病院としての高い専門性を有しています。山王病院は整形外科全般に加え足の外科・手外科をはじめとした専門性の高い医療を提供しています。それぞれにおいて整形外科一般外傷・疾患に対する研修に加えて、サブスペシャリティに対する専門性の高い研修を受けることができます（国福病院：関節外科・リウマチ、塩谷病院：足の外科・関節外科・スポーツ、市川病院：手外科・足の外科・リウマチ、熱海病院：関節外科・手外科、山王病院：足の外科・手外科・リウマチ）

いずれの連携施設も豊富な症例数を有しており（表 2）、連携施設研修では多くの患者の主治医または担当医として診療・手術を自ら担当し、毎年平均 100 件以上の手術執刀経験を積むことができます。指導医の数も豊富である上に、すべての連携施設が国際医療福祉大学グループであることの強みを生かして、難治疾患・外傷の治療に関しては施設の垣根を超えて他施設の専門医が応援・指導に行くことが可能です。

	施設名称	新患数 (2017)	手術数(2017)				
			脊椎	上肢・手	下肢	他	計
基幹施設	国際医療福祉大学三田病院	3920	370	20	140	180	710
連携施設	国際医療福祉大学塩谷病院	432	90	38	180	4	312
連携施設	国際医療福祉大学病院	1521	41	116	176	27	360
連携施設	国際医療福祉大学市川病院	2152	11	67	89	148	315
連携施設	国際医療福祉大学熱海病院	1592	13	123	164	86	386
連携施設	山王病院	3922	0	206	20	7	233
計		13539	525	570	769	452	2316

表 2 国際医療福祉大学三田病院および専門研修連携施設の実績

本プログラムの具体例を示します(表3)。各専攻医の希望を最大限考慮し、個々のプログラムの内容、とくに専門性や将来のサブスペシャリティ分野を見据えた研修コースを作成しています。

表3 研修プログラムの具体例

2019	1年目		2年目		3年目		4年目	
M1	三田		塩谷		国福	山王	市川	
M2	三田	国福		市川		三田	塩谷	
M3	三田	市川		国福	塩谷		山王	三田
M4	三田	熱海		山王	三田	市川		国福
M5	三田		山王	熱海		国福		三田
M6	三田	山王	三田		国福	熱海		三田

ローテーションによる単位取得例

プログラム1		1年目	2年目	3年目		4年目	
研修施設		三田	塩谷	国福	山王	市川	修了時
分野	必須単位数						
1. 脊椎・脊髄	6	6					6
2. 上肢・手	6		3		3		6
3. 下肢	6		3	3			6
4. 外傷	6	2				4	6
5. リウマチ	3				3		3
6. スポーツ	3		3				3
7. 小児	2	2					2
8. 腫瘍	2	2					2
9. リハビリ	3			3			3
10. 地域	3		3				3
流動	5					5	5
合計	45	12	12	6	6	9	45

2-3 専門研修プログラム修了後の進路

大きく分けて、専門医取得後サブスペシャリティ領域(上肢・下肢・脊椎・腫瘍)の研修へ進むコースと、大学院へ進学するコースがあります。サブスペシャリティ取得のための研修については、専門研修プログラムから連続して大学施設で研修が可能です。身分も変わることなく、雇用関係もそのまま継続できます。先述のように、本学には専門医が担うべきフィールドが豊富にあり、基幹施

設である三田病院を含む施設で臨床医として活躍しながら、高度な専門性を持った指導医のもとさらなる高みを目指していただくことが可能です。

大学院としては2018年に東京赤坂に博士課程（医学専攻）を中心とした新キャンパスが設立され、世界でも有数の講師をそろえ教育、研究の充実が図られています。当教室においても骨関節感染症、関節炎、骨代謝、バイオメカなど基礎研究に関する見識に長けたスタッフが充実し、彼らを指導者として大学院における研究生活が充実したものになるための体制が整っています。また特例として、3年目までに十分な研修を行うことできたと判断された専攻医については、4年目に大学院に入学し、近隣施設に勤務しながら研究を開始し、1年早く学位を取得することも可能です。大学院卒業後はサブスペシャリティ領域の研修に進みます。

どのような進路を選んだとしても、研修を順調に修了し一定以上の学問的業績を達成した医員には国外留学のチャンスが等しく与えられます。本学においては留学に対するバックアップの体制が整っており、帰国後の就職についても本学グループとして全面的なサポートを約束します。

3. 専門研修の目標

3-1 専門研修後の成果

本プログラムを修了した専攻医は、基本的な診療能力に加え運動器学に関する豊富な知識と高い倫理観、国際性を備えた整形外科専門医となることができます。また同時に以下のコア・コンピテンシーも習得します。

- 1) 患者や他の医療関係者とのコミュニケーション能力
- 2) 自主的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること（プロフェッショナルリズム）
- 3) 診療記録の適確な記載ができること
- 4) 医の倫理、医療安全等に配慮した、患者中心の医療を実践できること
- 5) 臨床の現場から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること
- 6) チーム医療を実践し、その一員として行動すること
- 7) 後輩医師に教育・指導を行うこと

とくに本学が医療系総合大学であることによる強みとして、1)ならびに 6)については他プログラムと比べ高い水準の達成を期待できます。

3-2 到達目標(修得すべき知識・技能・態度など)

1) 専門知識

専攻医は、本専門研修プログラムに沿って研修し、整形外科専門医として、運動器に関する科学的知識と高い社会性と倫理観を涵養します。さらに、最新の医学の新しい知識を修得・吸収できるように、幅広く基本的、専門的知識を修得します。専門知識習得の年次毎の到達目標を別添する資料 1 に示します。

2) 専門技能(診察、検査、診断、処置、手術など)

専攻医は、本専門研修プログラムに沿って研修し、整形外科専門医として、運動器に関する幅広い基本的な専門技能(診察、検査、診断、処置、手術など)を身につけます。専門技能習得の年次毎の到達目標を別添する資料 2 に示します。

3) 学問的姿勢

日常臨床の現場で生じた疑問点を科学的に解明しようとする意欲を持ち、その解答を論理的に導き出し正しくまとめる能力を修得することができることを一般目標とし、以下の行動目標を定めています。

- i. 経験症例から研究テーマを自ら立案しプロトコールを作成できる。
- ii. 研究を行う上で参考となる文献を検索し、適切に引用することができる。
- iii. 結果を科学的かつ論理的にまとめ、口頭ならびに論文として報告できる。
- iv. 研究・発表媒体には個人情報を含めないように留意できる。
- v. 研究・発表に用いた個人情報を厳重に管理できる。
- vi. 統計学的検定手法を選択し、解析できる。

さらに、本研修プログラムでは学術活動として、下記 3 項目を定めています。

- i. 当教室研修への参加(年 1 回)
- ii. 当教室主催の国際フォーラム(年 3 回)への参加
- iii. 外部の学会での発表(年 1 回以上)と論文作成(研修期間中 1 編以上)

4) 医師としての倫理性、社会性など

- i. 医師としての責務を自律的に果たし信頼されること(プロフェッショナリズム)

医療専門家である医師と患者を含む社会との契約を十分に理解し、患者、家族から信頼される知識・技能および態度を身につけます。本専門研修プログラムで

は、指導医とともに患者・家族への診断・治療に関する説明に参加し、実際の治療過程においては受け持ち医として直接患者・家族と接していく中で医師としての倫理性や社会性を理解し身につけていきます。

ii. 患者中心の医療を実践し、医の倫理・医療安全に配慮すること

整形外科専門医として、患者の社会的・遺伝学的背景もふまえ患者ごとの的確な医療を実践できること、医療安全の重要性を理解し事故防止、事故後の対応がマニュアルに沿って実践できることが必要です。本専門研修プログラムでは、専門研修(基幹および連携)施設で、義務付けられる職員研修(医療安全、感染、情報管理、保険診療など)への参加を必須とします。また、インシデント、アクシデントレポートの意義、重要性を理解し、これを積極的に活用することを学びます。インシデントなどが診療において生じた場合には、指導医とともに報告と速やかな対応を行い、その経験と反省を施設全体で共有し、安全な医療を提供していくことが求められます。

iii. 臨床の現場から学ぶ態度を修得すること

臨床の現場から学び続けることの重要性を認識し、その方法を身につけます。本専門研修プログラムでは、知識を単に暗記するのではなく、「患者から学ぶ」を実践し、個々の症例に対して、診断・治療の計画を立てて診療していく中で指導医とともに考え、調べながら学ぶプログラムとなっています。また、毎週行われる症例検討会や術前・術後カンファレンスでは個々の症例から幅広い知識を得たり共有したりすることからより深く学ぶことが出来ます。

iv. チーム医療の一員として行動すること

整形外科専門医として、チーム医療の必要性を理解しチームのリーダーとして活動できること、的確なコンサルテーションができること、他のメディカルスタッフと協調して診療にあたる事ができることが求められます。本専門研修プログラムでは、指導医とともに個々の症例に対して、他のメディカルスタッフと議論・協調しながら、診断・治療の計画を立てて診療していく中でチーム医療の一員として参加し学ぶことができます。また、毎週行われる症例検討会や術前・術後カンファレンスでは、指導医とともにチーム医療の一員として、症例の提示や問題点などを議論していきます。

v. 後輩医師に教育・指導を行うこと

自らの診療技術、態度が後輩の模範となり、また形成的指導が実践できるようになるために、初期研修医および後輩専攻医と受け持ち患者をともに担当して

もらい、チーム医療の一員として後輩医師の教育・指導も担っていただきます。また本プログラムでは、指導医と共に学生実習の指導の一端を担うことで、教えることが自分自身の知識の整理につながることを理解していきます。とくに本プログラムの連携施設は大部分が大学病院であり、学生が実習に参加しますので、研修期間全体を通じて学生の教育に参画する機会があります。また同様にすべての連携施設で後輩医師、他のメディカルスタッフとチーム医療の一員として、互いに学びあうことから、自分自身の知識の整理、形成的指導を実践していきます。

3-3 経験目標(種類、内容、経験数、要求レベル、学習法および評価法等)

1) 経験すべき疾患・病態

経験すべき疾患と症例数については、別添する資料 3:整形外科研修カリキュラムに明示されています。これに沿って、基幹・連携施設における切れ目ない研修を行います。

2) 経験すべき診察・検査等

別添する資料 3:整形外科研修カリキュラムに明示された経験すべき診察・検査等の行動目標に沿って研修します。尚、年次毎の到達目標は資料 2:専門技能習得の年次毎の到達目標 に示します。III 診断基本手技、IV 治療基本手技については 3年9か月間で5例以上経験します。

3) 経験すべき手術・処置等

別添する資料 3:整形外科専門研修カリキュラムに明示した一般目標及び行動目標に沿って研修します。経験すべき手術・処置等の行動目標に沿って研修します。本専門研修プログラムの基幹施設である国際医療福祉大学三田病院整形外科ならびにその研修連携施設をローテーションすることにより、研修中に必要な手術・処置の修了要件を満たすのに十分な症例を経験することができます。そして症例を十分に経験した上で、各連携施設において、施設での特徴を生かした症例や技能を広くより専門的に学ぶことができます。

4) 地域医療の経験(病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療など)

別添する資料 3:整形外科専門研修カリキュラムの中にある地域医療の項目に沿って周辺の医療施設との病病・病診連携の実際を経験します。

i. 研修基幹施設である国際医療福祉大学三田病院が存在する東京 23 区以外の地域医療研修病院において 3ヶ月(3 単位)以上勤務します。

ii. 本専門研修プログラムの連携施設には、その地域において地域医療の拠点となっている施設(地域中核病院)が含まれています。そのため、連携施設での研修中に以下の地域医療(過疎地域も含む)の研修が可能です。

- ・ 地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じ病診連携、病病連携のあり方について理解して実践できる。
- ・ 例えば、悪性疾患の終末期や、高齢化や変性疾患により著しく ADL の低下した患者、在宅医療やケア専門施設などを活用した医療を立案する。

5) 学術活動

研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得します。また、臨床的な疑問点を見出して解明しようとする意欲を持ち、その解答を科学的に導きだし、論理的に正しくまとめる能力を修得するため、年 1 回以上の学会発表、筆頭著者として研修期間中 1 編以上の論文を作成します。また当教室が主催する国際フォーラム(年 3 回 5-7 講演)に参加することにより、他大学整形外科教授をはじめとする第一線の講師からの多領域にわたる最新知識の講義を受けることができます。関東整形災害外科学会集談会東京地方会やその他の学会・研究会への参加・研究発表を推奨し、臨床研究に対する考え方やプレゼンテーションの経験を積むことができます。

4. 専門研修の方法

4-1 臨床現場での学習

研修内容を修練するにあたっては、1 ヶ月の研修を 1 単位とする単位制をとり、全カリキュラムを 10 の研修領域に分割し、基幹病院および協力病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3 年 9 か月間で 45 単位を修得する修練プロセスで研修します。

本研修プログラムにおいては手術手技を 600 例以上経験し、そのうち術者としては 300 例以上を経験することができます。尚、術者として経験すべき症例については、別添する資料 3:整形外科専門研修カリキュラムに示した(A:それぞれについて最低 5 例以上経験すべき疾患、B:それぞれについて最低 1 例以上経験すべき疾患)疾患の中のものとします。

術前術後カンファレンスにおいて手術報告をすることで、手技および手術の

方法や注意点を深く理解し、整形外科的専門技能の習得を行います。

指導医は上記の事柄について、責任を持って指導します。

4-2 臨床現場を離れた学習

日本整形外科学会学術集会時に教育研修講演(医療安全、感染管理、医療倫理、指導・教育、評価法に関する講演を含む)に参加します。また関連学会・研究会において日本整形外科学会が認定する教育研修会、各種研修セミナーで、国内外の標準的な治療および先進的・研究的治療を学習します。特に本プログラムでは当教室が主催する国際フォーラム(年3回)に参加することにより、他大学整形外科教授をはじめとする第一線の講師からの多領域にわたる最新知識の講義を受けることができます。

4-3 自己学習

日本整形外科学会や関連学会が認定する教育講演受講、日本整形外科学会が作成する e-Learning や Teaching file などを活用して、より広く、より深く学習することができます。日本整形外科学会作成の整形外科卒後研修用 DVD 等を利用することにより、診断・検査・治療等についての教育を受けることもできます。

4-4 専門研修中の年度毎の知識・技能・態度の修練プロセス

整形外科専門医としての臨床能力(コンピテンシー)には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力(コアコンピテンシー)が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力(コアコンピテンシー)を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力(コアコンピテンシー)を早期に獲得することを目標とします。

1) 具体的な年度毎の達成目標は、資料 1: 専門知識習得の年次毎の到達目標及び資料 2: 専門技能習得の年次毎の到達目標を参照ください。

2) 整形外科の研修で修得すべき知識・技能・態度は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性を対象とし、専門分野も解剖学的部位別に加え、腫瘍、リウマチ、スポーツ、リハビリ等多岐に渡ります。この様に幅広い研修内容を修練するにあたっては、別添した研

修方略(資料 6)に従って 1 ヶ月の研修 を 1 単位とする単位制をとり、全カリキュラムを 10 の研修領域に分割し、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3 年 9 か月間で 45 単位を修得する修練プロセスで研修します。研修コースの具体例は表 3 または資料 5:研修スケジュールに示した通りです。

5. 専門研修の評価

5-1 形成的評価

1) フィードバックの方法とシステム

専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表(資料 7)の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表(資料 8)で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表(資料 7)の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。尚、これらの評価は日本整形外科学会が作成した整形外科専門医管理システムから web で入力します。指導医は抄読会や勉強会、カンファレンスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

2) 指導医層のフィードバック法の学習(FD) 指導医は、日本整形外科学会が行う指導医講習会等を受講してフィードバック法を学習し、より良い専門医研修プログラムの作成に努めています。指導医講習会には、フィードバック法を学習するために「指導医のあり方、研修プログラムの立案(研修目標、研修方略及び研修評価の実施計画の作成)、専攻医、指導医及び研修プログラムの評価」などが組み込まれています。

5-2 総括的評価

1) 評価項目・基準と時期

専門専攻研修 4 年目の 12 月に研修期間中の研修目標達成度評価報告と経験症例数報告をもとに総合的評価を行い、専門的知識、専門的技能、医師としての倫理性、社会性などを習得したかどうかを判定します。

2) 評価の責任者

年次毎の評価は専門研修基幹施設や専門研修連携施設の専門研修指導医が行

います。専門研修期間全体を通しての評価は、専門研修基幹施設の専門研修プログラム統括責任者が行います。

3) 修了判定のプロセス

研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。修了認定基準は、

- i. 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること(別添の専攻医獲得単位報告書(資料 9)を提出)。
 - ii. 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
 - iii. 臨床医として十分な適性が備わっていること。
 - iv. 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること。
 - v. 1 回以上の学会発表、筆頭著者として 1 編以上の論文があること。
- の全てを満たしていることです。

4) 他職種評価

専攻医に対する評価判定に他職種(看護師、技師等)の医療従事者の意見も加えて医師としての全体的な評価を行い専攻医評価表(資料 10)に記入します。専攻医評価表には指導医名以外に医療従事者代表者名を記します。

6. 専攻医受入数

各専攻医指導施設における専攻医総数の上限(4 学年分)は、当該年度の指導医数×3 となっています。各専門研修プログラムにおける専攻医受け入れ可能人数は、専門研修基幹施設および連携施設の受け入れ可能人数を合算したものです。またプログラム参加施設の合計の症例数で専攻医の数が規定され、プログラム全体での症例の合計数は、(年間新患数が 500 例、年間手術症例を 40 例)×専攻医数とされています。

本プログラムにおいては、専門研修基幹施設である国際医療福祉大学三田病院整形外科と専門研修連携施設全体の指導医数は 19 名、年間新患数 1 万 3 千名以上、年間手術件数 2200 件以上であり、上記基準に基づき、かつ質量ともに十分な指導を提供するために 1 年 6 名程度を受入数とします。

7. 地域医療・地域連携への対応

整形外科専門医制度の目的の一つは地域の整形外科医療を守ることです。本研修プログラムにおいては地域医療の基幹となる各研修連携病院における外来診療および救急医療に従事し、主として一般整形外科外傷の診断、治療、手術に関する研修を行います。また周囲医療機関との病病連携、病診連携を経験・習得します。本研修プログラムでは、専門研修基幹施設である国際医療福祉大学三田病院が存在する、東京 23 区以外の地域医療研修病院に 3 ヶ月(3 単位)以上勤務することによりこれを行います。

地域において指導の質については、先述のように本プログラムの基幹施設ならびに連携施設はすべて国際医療福祉大学グループの病院であり、施設間の連携ならびに指導医の連携は極めて密接です。専攻医に関する情報のフィードバックが日常的に行われています。各連携施設の指導医には当教室が主催する国際フォーラムをはじめとしたセミナーへの積極的な参加を求めます。また同時に、自らが指導する専攻医の集談会あるいは学会への参加を必須としています。また研修関連施設の指導医は、研修プログラム管理委員会に参加するとともに、自らが指導した専攻医の評価報告を行います。同時に専攻医から研修プログラム管理委員会に提出された指導医評価表に基づいたフィードバックを受けることとなります。

8. サブスペシャリティ領域との連続性について

整形外科専門医のサブスペシャリティ領域としては日本脊椎脊髄病学会専門医、日本手外科学会専門医、日本リウマチ学会専門医等があります。国際医療福祉大学医学部整形外科研修プログラムには、これらの専門医資格を有する指導医によるサブスペシャリティ領域への連続した育成を行う体制があります。またそれ以外にも関節外科、足外科、スポーツ整形外科、外傷等のサブスペシャリティに対する指導体制を有しています。専攻医が研修の中で興味を抱き、将来指向する各サブスペシャリティ領域については、高い専門性を有する指導医のサポートのもと、より深い研修を受けることができます。なお、専攻医によるサブスペシャリティ領域の症例経験や学会参加は強く推奨されます。

9. 研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計 6 カ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することが求められます。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が 6 カ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

10. 研修プログラムを支える体制

10-1 専門研修プログラムの管理運営体制

基幹施設である国際医療福祉大学三田病院においては、指導管理責任者(プログラム統括責任者を兼務)および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価体制を整備します。専門研修プログラムの管理には添付した日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた 双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることから研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために専門研修基幹施設に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置き、年に一度開催します。

10-2 労働環境、労働安全、勤務条件

労働環境、労働安全、勤務条件等は各専門研修基幹施設や専門研修連携施設の病院規定によります。

- 1) 研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- 2) 研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- 3) 過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- 4) 施設の給与体系を明示し、3年9カ月間の研修で専攻医間に大きな差が出ないように配慮します。

本プログラムにおける基幹施設ならびに連携施設はすべて本学グループの施設です。よって労働条件等は基本的に変わらず、その点での不公平は他プログラムに比べて生じにくいですが、実際の労働時間や当直回数などは各施設の地域性が反映されます。総括的評価を行う際はこれらの事項をもれなく研修プログラム管理委員会が把握し、専攻医間での不公平が生じないように留意します。

11. 研修実績記録システム、マニュアル等について

11-1 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム

原則として、整形外科専門医管理システムを用いて、整形外科専門研修カリキュラムの自己評価と指導医評価及び症例登録を web 入力で行います。

11-2 医師としての適性などの評価方法

指導医は別添の研修カリキュラム「医師の法的義務と職業倫理」の項で医師としての適性を併せて指導し、整形外科専門医管理システムにある専攻医評価表(資料 10)を用いて入院患者・家族とのコミュニケーション、医療職スタッフとのコミュニケーション、全般的倫理観、責任感を評価します。

11-3 プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

日本整形外科学会が作成した①整形外科専攻医研修マニュアル(資料 13)、②整形外科指導医マニュアル(資料 12)、③専攻医取得単位報告書(資料 9)、④専攻医評価表(資料 10)、⑤指導医評価表(資料 8)、⑥カリキュラム成績表(資料 7)を用います。③、④、⑤、⑥は整形外科専門医管理システムを用いて web 入力することが可能です。

1) 専攻医研修マニュアル

日本整形外科学会が作成した整形外科専攻医研修マニュアル(資料 13)をご参照ください。自己評価と他者(指導医等)評価は、整形外科専門医管理システム④専攻医評価表(資料 10)、⑤指導医評価表(資料 8)、⑥カリキュラム成績表(資料 7)を用いて web 入力します。

2) 指導者マニュアル

日本整形外科学会が作成した別添の整形外科指導医マニュアル(資料 12)をご参照ください。

3) 専攻医研修実績記録フォーマット

整形外科研修カリキュラム(資料 7)の行動目標の自己評価、指導医評価及び経験すべき症例の登録は日本整形外科学会の整形外科専門医管理システムを用いて web フォームに入力します。

4) 指導医による指導とフィードバックの記録

日本整形外科学会の整形外科専門医管理システムにある専攻医評価表、指導医評価表 web フォームに入力することで記録されます。

5) 指導者研修計画(FD)の実施記録

指導医が、日本整形外科学会が行う指導医講習会等を受講すると指導医に受講証明書が交付されます。指導医はその受講記録を整形外科専門研修プログラム管理委員会に提出し、同委員会はサイトビジットの時に提出できるようにします。受講記録は日本整形外科学会でも保存されます。

12. 研修プログラムの評価と改善

12-1 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本整形外科学会が作成した指導医評価表を用いて、各ローテーション終了時(指導医交代時)に専攻医による指導医や研修プログラムの評価を行うことにより研修プログラムの改善を継続的に行います。専攻医が指導医や研修プログラムに対する評価を行うことで不利益を被ることがないように保証します。

12-2 専攻医等からの評価(フィードバック)をシステム改善につなげるプロセス

専攻医は、各ローテーション終了時に指導医や研修プログラムの評価を行います。その評価は研修プログラム統括責任者が報告内容を匿名化して研修プログラム管理委員会に提出、研修プログラム管理委員会では研修プログラムの改善に生かすようにするとともに指導医の教育能力の向上を支援します。

12-3 研修に対する監査(サイトビジット等)・調査への対応

研修プログラムに対する日本専門医機構など外部からの監査・調査に対して研修プログラム統括責任者および研修連携施設の指導管理責任者ならびに専門研修指導医及び専攻医は真摯に対応、プログラムの改良を行います。専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構の整形外科研修委員会に報告します。

13. 専攻医の採用と修了

13-1 採用方法

1) 応募資格

初期臨床研修修了見込みの者であること。

2) 採用方法

基幹施設である国際医療福祉大学三田病院に置かれた整形外科専門研修プログラム管理委員会が、整形外科専門研修プログラムをホームページや印刷物により毎年公表します。毎年7月頃より説明会などを複数回行い、整形外科専攻医を募集します。

翌年度のプログラムへの応募者は、研修プログラム責任者宛に所定の形式の『国際医療福祉大学医学部整形外科専門研修プログラム応募申請書』および履歴書を提出します。申請書は

(1) 国際医療福祉大学三田病院の website

(URL: <http://mita.iuhw.ac.jp>)よりダウンロード

(2) 病院・医局に TEL または e-mail で問い合わせ(下記第14項「連絡先」をご参照ください) のいずれの方法でも入手可能です。

現在の予定では、9月または10月に第1次の書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。定員に余裕がある場合のみ、第2次以降の採用試験を行う予定です。

13-2 修了要件

1) 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。

- 2) 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
 - 3) 臨床医として十分な適性が備わっていること。
 - 4) 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること。
 - 5) 1 回以上の学会発表を行い、また筆頭著者として 1 編以上の論文があること。
- 以上 1)～5) の修了認定基準をもとに、専攻研修 4 年目の 12 月に、研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。

14. 連絡先

国際医療福祉大学医学部整形外科は随時、本研修プログラムおよび病院見学に関する問い合わせを受け付けています。気軽に下記までご連絡ください。

〒108-8329 東京都港区三田 1-4-3 国際医療福祉大学三田病院整形外科

TEL:03-3451-8121 (三田病院代表)

専門研修プログラム担当

総務部 柳原 (やなぎはら) (内線 5834)

整形外科秘書 安室 (やすむろ) (内線 5769)

E-mail はこちらに

h.yanagihara@iuhw.ac.jp

または

専門研修プログラム担当医師

長島正樹(三田病院):masankin@iuhw.ac.jp

中山政憲(市川病院):nakamayam@iuhw.ac.jp